

青森県佐井村《福浦地区》に注目した、
一点突破型観光ガイド。



青森県佐井村

うらを求めて



福浦

ふくうら



福浦とは？

うらを味わう

ぬいどうの山にノボル

福浦の歌舞伎

ふくうらの宿

うらを食べる旅

釣り旅・登山旅

福浦とは？

ふくうら

DATA

【人口】約 100 名

【主な産業】漁業

【名産品】うに、鮭、イカ、その他鮮魚

【観光客訪問数】年間約 5,000 人

【主なイベント】福浦の歌舞伎特別上演 (3 月)

【みどころ】縫道石山、仏ヶ浦、漁師小屋



最果ての漁村を訪れる。

本州最北端の青森県の中でも、最も北海道に近いのが大間町。そこから車で二十分ほど南下すると佐井村がある。佐井村は、地図で見ると「谷」の形に見える下北半島の西海岸に面した、細長い逆三角形の村だ。東西十四 km、南北二十八 km、総面積は百三十五 km²と意外に大きい。そんな細長い村のほぼ中央に福浦地区がある。人口は約百人。海岸線までせり出した岩山の間を流れる福浦川に沿って数十軒の民家が建ち並ぶ小さな集落である。海岸は全面が港として整備され、左右から伸びた背の高い防波堤が狭い港湾をふさいでいる。浜には多くの漁師小屋と漁船が並び、ここがまさに漁師の町であることを実感させる。

主な産業は漁業で、多くの人が漁師として働くほか、建設業や公務員などの仕事に就く人もいる。集落には宿が四軒と、食堂が二軒あり、旅館の一軒は商店も兼ねている。

まるで、大自然の真ん中にちょっとだけ間借りしているような不思議な雰囲気のあるこの集落は、自然の営みに沿って生活がある。春の雪融けとともに漁が始まり、秋の落葉とともに冬支度をする。自然の恵みの中に暮らしているような、そんな場所だ。

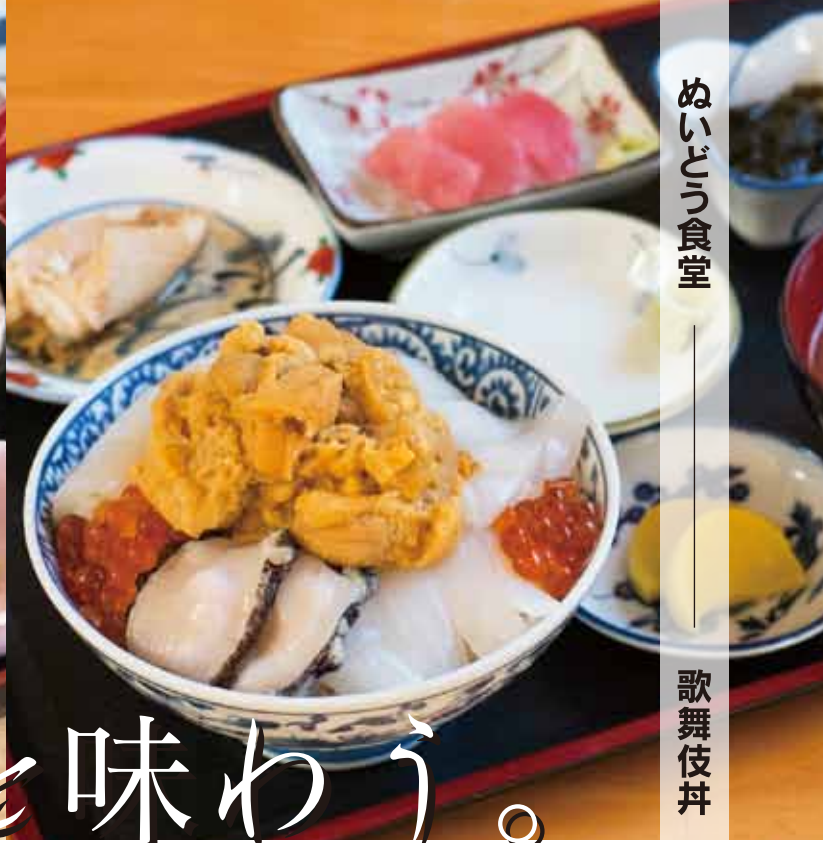


仏ヶ浦にいちばん近い集落

佐井村と聞いてすぐに思い浮かぶのは、なんと言っても仏ヶ浦だろう。下北半島の西海岸中央部に、南北約二 km に渡って大小さまざまな巨岩・奇岩が立ち並ぶ仏ヶ浦は、その不思議な光景をひと目見ようと全国から観光客を集める場所だ。国指定天然記念物でもある仏ヶ浦は、佐井村中心部から約二十四 km、車で約四十分と道のりは長く、公共交通機関と言えは佐井港から出る定期観光船のみである。そんな仏ヶ浦へ、いちばん近い宿のある集落が福浦。車で約十分だ。実は、仏ヶ浦が最も美しく見えるのは日没の頃である。西海岸に面している仏ヶ浦で、海峡の向こうへ沈みゆく夕陽を眺めるという体験は、ほとんどこの世のものとは思えない、非常に神秘的なものである。



夏の仏ヶ浦



うにを味わう。

ふくうらの

福浦のウニが美味しい理由

東北のすみずみまで覆う雪も溶けきらず、朝晩の肌寒さが未だ残る四月朔日(ついたち)、福浦では「カゴウニ漁」が始まる。文字通り、籠状の仕掛けを沈めてウニを獲る漁だ。水深二十から六十メートルほどの海底に沈めるウニを採る。エサは主にホンダワラ。他にわかめや昆布なども使用する。

漁師の朝は早い。毎朝五時前に起きて浜へ出る。そして六時前には海上で待機する。午前六時から七時までがウニ漁の制限時間。これは漁協を中心にこの地域で定められている規制だ。これによってウニの乱獲を防ぎ、市場価格の安定に繋がる。つまり、一日に獲ることのできる量に上限がある、ということだ。

初夏の頃になると、カゴウニ漁と並行して「突きウニ漁」も始まる。底にガラス板をはめ込んだ木箱を通して海底を観察しながらタモでウニを集めるといふ、この地域で古くから行われている伝統的な漁法である。ウニ漁の

時期になると、遠くへ出稼ぎに行っている人たちが戻ってきて漁に参加する。港からは毎朝三十を超える漁船が出航するので、ウニが多くいるポイントに船が何艘も集まってしまうこともあるそうだ。こうして最盛期を迎えるウニ漁は、八月下旬、海水温が上昇してウニが産卵を始める頃に終わり、季節は秋へと向かう。

福浦を含む佐井村で獲れるのは、

可食部が黄色いキタムラサキウニ。オレンジ色のパファンウニも見られるが、この地域の独特な地形とエサの違い



だろうか、身が小さくて苦みも強いため食用にならないという。福浦のウニが一番美味しいのは四月から八月上旬頃まで。その日の朝に獲れたばかりのものが、やはりいちばんうまい。ウニの保存は、塩水につけておくというのが味を落とさない

秘訣だが、輸送の際には折り箱と呼ばれる木の板に盛り付けられるのが普通である。この場合、ウニが溶けてしまうのを防ぐためにミヨウバンを用いることが多く、味を落とす原因となる場合がある。また、

冷凍その他の加工も品質低下に繋がるため、最も美味しくウニを食べるためには、産地を訪れるのが手っ取り早い。付け加えると、つけておく塩水の微妙な加減ができる点も、産地のウニが美味しい理由のひとつである。

福浦の食堂や民宿の料理に使用される魚介類は、ほとんどが目への浜で獲れたものである。春から夏はアブラメ、カレイ、ソイ、ヒラメ、ブリ、タイ、秋はサケ、十二月の末から二月頃までタラ。ヤリイカが三月頃から。出荷はしないが八月頃には真イカもあがるそうだ。福浦の磯は海釣りにも最適だ。春から秋にかけて、ソイやアブラメ、カレイ、クロダイなどを狙う釣り人が泊まりがけで訪れる。釣り船もあり、民宿でも幹旋している。相場としては一艘につき二時間五千円ほどと考えて良い。エサ使い放題のオプションもあるという。

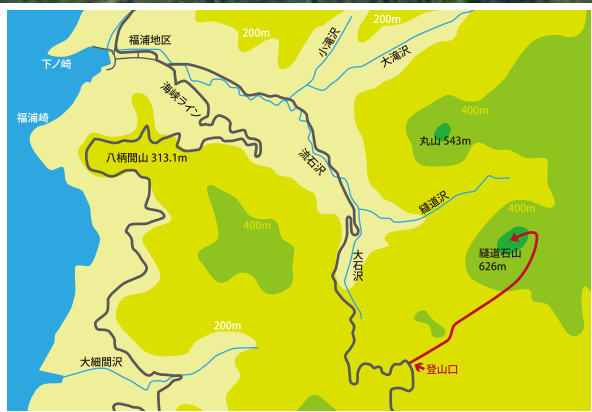
佐井村では、特産のウニを自分の手で処理する「うにむき体験」も行っている。福浦を訪れた際にはぜひ体験して欲しい。



DATA

【山名】縫道石山（ぬいどういしやま）
【標高】626m
【標高差】約326m（登山口から）
【シーズン】4月中旬から11月下旬
【コース】1コース
【歩行時間】約2時間30分

山頂まで約一時間半。
歩くことで感じる
下北の息吹。



山頂から見る福浦地区



山頂に横たわる巨岩



オオウラヒダイワタケ

ぬいどうの山にノボル

その土地の山に登ってみる。

旅に出ると、たいていの町には、その土地を象徴する山がある。町のどこからでもその姿を望むことができ、地元の人に古くから親しまれてきた山。福浦地区の縫道石山も、記憶に残る山のひとつである。

頂上の標高が六二六m、登山口との標高差は三二六mであり、難易度は東京の高尾山に近く、初心者でも気軽に登ることができ、歩行時間は、上りが約一時間半、下りが約一時間で計二時間半ほどの行程になる。登山口までは、舗装された林道を車で行くことができ、登山口に十台ほど駐車することができる。登山カードボックスや熊除鈴貸出箱も設置されている。登山口から杉林の一本道を進み、最初百メートルほど下ったのち、本格的な上りになる。縫道石山らしい岩登りの小道を、ヒバの幹に掴まりながらやや左回りに登り、中盤からさらにきつい登りとなる。ヤマツツジやミネザクラの低木を見ながら、最後は足場の悪い狭い道を両手を使って登ると、頂上付近には八畳敷ほどのテラスが張り出している。眼下には縫道沢から福浦の集落が、遠く海の方には津軽半島や松前の山々が眺望できる。登山シーズンは四月中旬から十一月まで。



頂上付近から野平方向を望む



樹上のコケ



青森ヒバの倒木

民衆歌舞伎のはじまり

威勢の良い笛や太鼓の拍子とともに幕が開けると、一人の役者が下手から飛び出す。青・黒・金の派手な衣装に身を包み、舞台を清める三番叟を軽快に舞い踊る…

福浦に百年以上前から伝わる伝統芸能「福浦の歌舞伎」の開幕の一場面である。福浦の人々が「シバヤ（芝居）」と称して上演を楽しみにしているこの歌舞伎は、明治中期に佐井村内で歌舞伎の指導をしていた上方の役者、中村菊五郎・菊松夫妻を福浦へ招き、二年に渡り伝習し、一役を一家で担う世襲制で受け継がれてきた漁村歌舞伎である。すべて口伝で継承されており、意味のわからない部分もそのまま方言で伝わっているのが特徴で、演じ手と観る側が一体となって熱を帯びる独特の雰囲気も、中央歌舞伎とは違う面白さがある。



青森県無形民俗文化財

福浦の歌舞伎

年に一度の特別上演

歌舞伎の伝習を受けて以来、太平洋戦争による中断を除いて毎年上演され、昭和五十九年には青森県無形民俗文化財に指定された。

役柄が各家によって代々受け継がれる世襲制であることが福浦歌舞伎の特徴のひとつだが、最近では出稼ぎなどで人手不足となり、世襲制度もなくなりつつある。

昔は上演する演目も多く、二日間にも渡り上演され、それも各戸持ち回りで開催された。自分の家に順番が来るのが待ち遠しく、大変賑やかだったという。福浦以前には矢越と磯谷にも同様の歌舞伎が伝えられたが、このうち磯谷の歌舞伎は後継者不足から今は途絶えている。

現在では毎年三月中旬頃に、「歌舞伎の館」で特別上演が行われているが、年に一度の貴重な機会なので、ぜひ一度訪れ鑑賞して欲しい。



ふくうらの宿

旬の食を味わう。
 縫道石山へ登る。
 仏ヶ浦を歩く。
 福浦の歌舞伎を知る。
 味わい深い、
 田舎の夜を過ごす。

民宿 なみえ荘

アルサスのある佐井地区から17km、車で30分の福浦地区にある宿。春と秋は縫道石山への登山客が多く訪れるほか、正月やお盆の季節には帰省客も多い。ゴールデンウィークなどの長期休暇は混雑することが多いので早めの予約を。

【電話】0175-38-5051
 【住所】佐井村福浦川目 157

【料金】1泊2食/大人6,000円
 ※こども12歳以下/4,000円



民宿 ゆづき荘

毎日漁に出るご主人が提供する新鮮な海の幸が魅力。もちろんお出しする直前にさばきます。5月～8月はほぼ必ず旬の生ウニを楽しめます。自前の釣り船を出しているため、特に釣り人にはもってこいの宿です。条件が合えば、釣った魚をさばいてもらうことも可能。6月～7月はソイ・アイナメ・メバルなど。

【電話】0175-38-5337
 【住所】佐井村福浦川目 99

【料金】1泊2食/大人6,000円
 ※こども12歳以下/4,000円



旅館 福寿荘

ご主人とおかみさんの二人で親切丁寧な接客を心がけています。旬の海の幸を厳選した、見た目にもバランスの良い料理が特徴。佐井村では唯一、全室禁煙の宿です。おかみさんの飾りお花が、いっそう家庭的な雰囲気を演出しています。釣り船の斡旋も承っており、20～30年という古いつきあいのある常連さんもいるそうです。

【電話】0175-38-5130
 【住所】佐井村福浦川目 100

【料金】1泊2食/大人6,800円
 ※こども12歳以下/3,500円



田中旅館

おかみさんは宿の仕事で心のこもった接客を、旦那さんは漁に出て新鮮な海の幸を提供するという、役割分担で宿を経営しています。特に、旬の魚を使用したおかみさん特製の煮付けは大好評。過去には梅沢富美男さんをはじめとする有名人が宿泊し、テレビ番組に登場したこともあるそうです。宿泊は予約必須。

【電話】0175-38-5835
 【住所】佐井村福浦川目 104

【料金】1泊2食/大人8,500円
 ※こども12歳以下/4,000円



福浦で 釣り旅 or 登山旅

四季を通して多様な釣りが楽しめる福浦周辺の磯は、釣りファンにぜひともチャレンジして欲しい良質の釣り場で、釣り船を手配してくれる宿もあります。また、気軽に楽しめる縫道石山登山も魅力。青森ヒバの原生林を歩き、頂上からは津軽海峡が一望できます。

車で行く1泊2日宿泊プラン

1日目

お好みのルートで

- ① 蟹田港発 9:20 むつ湾フェリー
- ② 函館港発 9:10 津軽海峡フェリー
- ③ 青森市内発 8:00 野辺地経由

昼食

福浦で新鮮な「うに」をメインにした、「歌舞伎丼」や「海鮮丼」をご賞味。

午後

仏ヶ浦の奇岩を遊覧船から鑑賞。

宿泊

家庭的な雰囲気のある福浦に宿泊(旅館または民宿) 夕食は新鮮な海の幸を満喫!!

2日目

午前 お好きなプランで福浦の魅力を体験。

- A 海釣りプラン (早朝5時頃から釣り船にて)
- B 縫道石山 軽登山 (往復約2時間半)

昼食

自由

午後

佐井村周辺を散策ののち帰路へ。



お好みのルートで

- ① 脇野沢港発 15:30 むつ湾フェリー
▶▶▶ 16:30 蟹田港着
- ② 大間港発 14:10 津軽海峡フェリー
▶▶▶ 15:40 函館港着
- ③ 福浦発 14:00 野辺地経由
▶▶▶ 18:00 青森市内着

釣り船をご紹介します。

福浦で宿泊される場合

各旅館・民宿にて釣り船を用意、または斡旋していますので、お泊まりになる宿へ直接ご相談ください。

福浦で宿泊されない場合

宿泊されない場合は、佐井村観光協会までお問い合わせください。 Tel.0175-38-4515

料金

時期や燃料価格などによって変動する場合がありますが、一艘のご利用で1時間5,000円程度が相場です。また、エサ使い放題などのオプションも用意されています。

※登山ガイドが必要な場合は、佐井村観光協会までお問い合わせください。 Tel.0175-38-4515 青森県下北郡佐井村大佐井112 アルサス1階

福浦の うにを食べる旅

福浦のウニを食べにいく日帰りドライブ旅行はいかがでしょう。福浦の食堂は午後4時には閉店してしまうので注意。事前に予約して行くとスムーズに食事ができます。お店側としても、ウニはその日の漁に左右されるので、予約があれば対応しやすいとのこと。

車で行く気軽に日帰りプラン

日帰り

お好みのルートで

- ① 蟹田港発 9:20 むつ湾フェリー
- ② 函館港発 9:10 津軽海峡フェリー
- ③ 青森市内発 8:00 野辺地経由

昼食

福浦で新鮮な「うに」をメインにした、「歌舞伎丼」や「海鮮丼」をご賞味。

午後

仏ヶ浦の奇岩を遊覧船から鑑賞。
(※ 帰路フェリーの出航時刻により、仏ヶ浦見学ができない場合があります)

お好みのルートで

- ① 脇野沢港発 15:30 むつ湾フェリー
▶▶▶ 16:30 蟹田港着
- ② 大間港発 14:10 津軽海峡フェリー
▶▶▶ 15:40 函館港着
- ③ 福浦発 14:00 野辺地経由
▶▶▶ 18:00 青森市内着



ぬいどう食堂



仏ヶ浦ドライブイン

旬の食材を豪快に盛り付けた「歌舞伎丼」(1,000円)は、味噌汁や焼き魚なども付いてお得!

電話 0175-38-5865 (要予約)
住所 佐井村福浦川目 83-1

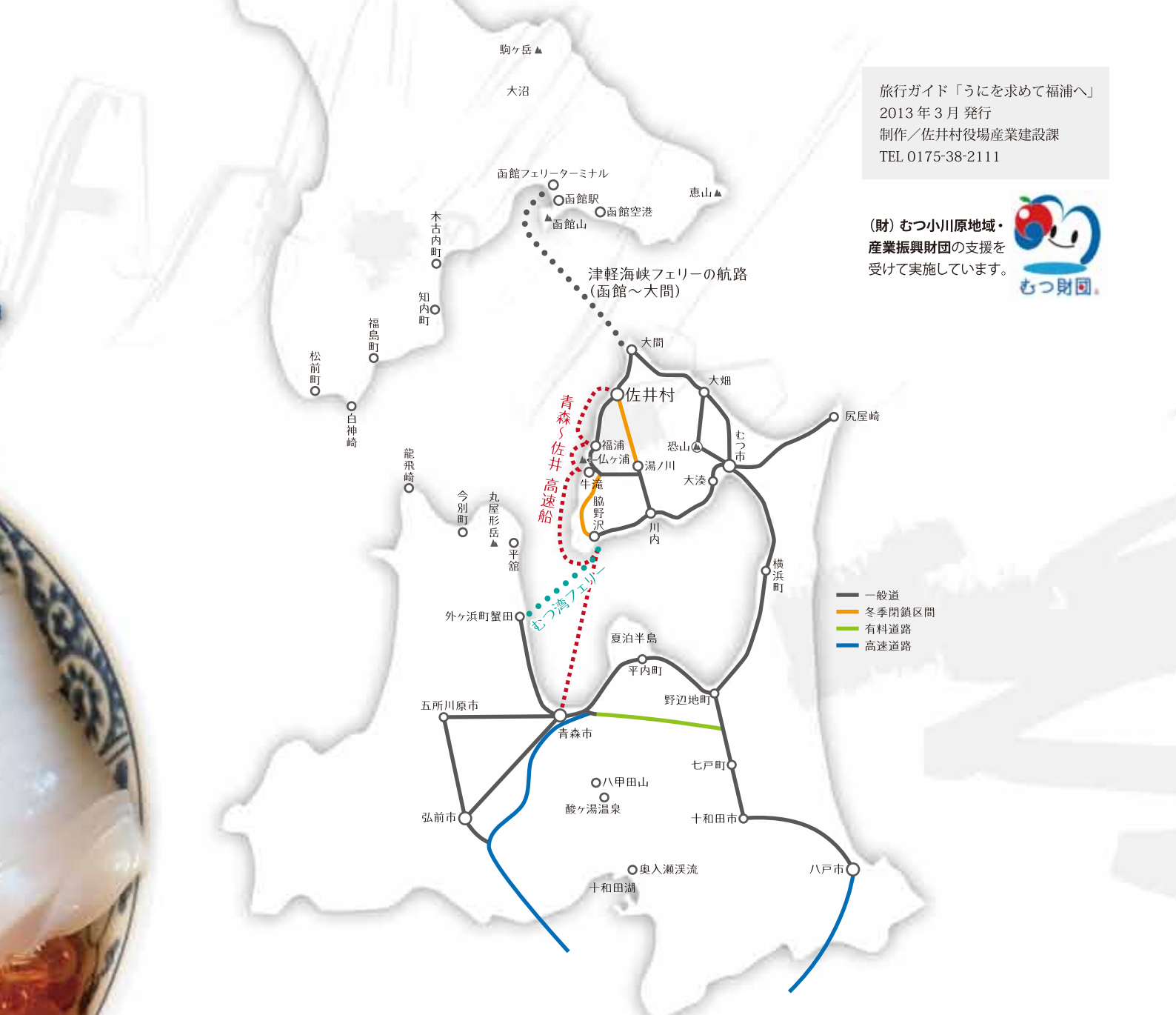
福浦の新鮮な季節の味をお腹いっぱい楽しめる「海鮮丼」(1,200円)がおすすめ!

電話 0175-38-5825 (要予約)
住所 佐井村福浦川目 85



旅行ガイド「うにを求めて福浦へ」
2013年3月発行
制作／佐井村役場産業建設課
TEL 0175-38-2111

(財)むつ小川原地域・
産業振興財団の支援を
受けて実施しています。



— 一般道
— 冬季閉鎖区間
— 有料道路
— 高速道路

各船便利用時の所要時間

函館～大間	1時間30分
津軽海峡フェリー株式会社	函館ターミナル / 0138-43-4545 青森ターミナル / 017-766-4733 大間ターミナル / 0175-37-3111
佐井～仏ヶ浦	往復90分
佐井定期観光株式会社	0175-38-2255
仏ヶ浦海上観光株式会社	0175-38-2244
青森～佐井	2時間30分
シライイン株式会社	017-722-4545
蟹田～脇野沢	1時間
むつ湾フェリー株式会社	蟹田乗り場 / 0174-22-3020 脇野沢乗り場 / 0175-44-3371



マイカー利用時の
所要時間